

# 魅力発信！えひめ農業NOW

令和4年1月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、1月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

令和4年1月定期報告

局・支局	室・拠点	No.	標 題	頁	非公開
東予	地域	1	親芋副芽セル苗増殖法を活用したさといも優良種芋の確保	1	
東予	地域	2	令和4年産「ひめの凜」の栽培面積まとまる	1	
東予	四中	3	特産野菜前期栽培(さといも・やまのいも)資料のDM対応	2	
東予	産地	4	花木の寒風害対策を実施	2	
今治	地域	5	ニホンザル対策について集落ぐるみで検討	3	
今治	しまなみ	6	上浦地区の早期復興へ向けて営農について意見交換	3	
今治	しまなみ	7	島檸檬(レモン)ラムネ菓子の販売促進を支援	4	
今治	産地	8	新花材ビブルナム・ティナス等の花木栽培塾を開催	4	
中予	地域	9	中予の令和4年産「ひめの凜」栽培申し込み状況	5	
中予	地域	10	リアルタイム栄養診断と天敵導入でいちごの生育順調	5	
中予	地域	11	「農福弁当」の商品開発へ着手	6	
中予	地域	12	「農福フェア」開催にむけて	7	
中予	伊予	13	サラリーマン等を対象とした就農相談会を開催	8	
中予	伊予	14	「葉れるや」が料理研修とグループのロゴを検討!	8	
中予	久万	15	夏秋トマトの病害虫・生理障害診断ポスター作成	9	
中予	久万	16	ピーマンの自動かん水装置の導入支援	9	
中予	産地	17	第2回「さくらひめ」きゅんです♡キャンペーン』の結果概要について	10	
南予	地域	18	青年農業者によるノウサギの捕獲活動を実施	11	
南予	地域	19	優良種芋の生産に向けて	11	
南予	地域	20	柑橘農業復興対策の着実な推進に向けて	12	
南予	鬼北	21	鬼北のくり産地を次世代に繋ぐために!	13	
南予	鬼北	22	コロナに負けず、くりの栽培管理講習会を実施!	13	
南予	鬼北	23	花粉キウイフルーツモデル園で苗木ポットの導入を行う	14	
南予	鬼北	24	鬼北地区の農産物加工品を魅力的に見せる写真撮影研修会を開催!	14	
南予	鬼北	25	認定農業者が経営面積拡大等に向け検討	15	
南予	鬼北	26	きゅうり生産者数の拡大に向けて	15	
南予	鬼北	27	ハウスきゅうり1条振分摘芯整枝法により収量及び秀品率アップ	16	
南予	愛南	28	「河内晩柑」の省力化を推進	17	
南予	産地	29	うめの「春季摘心処理」の効果を調査	18	
南予	産地	30	「南予の逸品」と「地域商社的農業者」の取組を情報発信!	19	
八幡浜	地域	31	八幡浜市高野地地区で就農支援チーム発足の機運高まる	20	
八幡浜	地域	32	輸出用温州みかん生産者のグローバルギャップ認証審査をサポート	20	
八幡浜	地域	33	「清見」の新たな販売商材(夏季販売果実)を百貨店パイヤーにPR	21	
八幡浜	地域	34	一次産業女子さくらひめメンバーが農業経営について意見交換	21	
八幡浜	地域	35	女性の労働環境改善を目指し家族経営協定を締結	22	
八幡浜	大洲	36	甘柿「太秋」のせん定講習会を実施	23	
八幡浜	大洲	37	直売所出荷者に対する春・夏野菜の栽培講習会を開催	23	
八幡浜	西予	38	県内一の小麦産地の安定生産に向けて栽培概要板を設置	24	
八幡浜	西予	39	令和4年産水稲栽培における「稲こうじ病」対策	24	
八幡浜	西予	40	新規就農者が経営に係わる税について学ぶ	25	
八幡浜	西予	41	「西予米」売れる米産地の確立へアンケート調査結果をとりまとめ	25	
八幡浜	西予	42	産直活動「かかCの市」で地域食「ひな豆」を伝承	26	
八幡浜	産地	43	「第8回南予マルシェ」を八幡浜で開催	27	
八幡浜	産地	44	JAIにしようの「甘平」台湾へ	27	
八幡浜	産地	45	加工用青ねぎの冬季育苗期間の短縮効果を検証	28	
農産園芸	高度普及	46	「甘平」の裂果対策に向けて土壌下層への根域の拡大を確認	29	
農産園芸	高度普及	47	リアルタイム遠隔診断におけるニューアイテムの試用	30	
農産園芸	高度普及	48	いちごの高収量を目指し厳寒期の培地内の養液濃度等を調査	31	
農産園芸	高度普及	49	革新的技術を実証する新型ハウスの建設等を指導	32	
農産園芸	企画調整	50	農業改良普及事業に関する外部評価委員会を開催	33	

## 東予地方局 地域農業育成室

### ■親芋副芽セル苗増殖法を活用したさといも優良種芋の確保

- 地域農業育成室は1月13日、27日、さといもの優良種芋を安定的に確保するため、J A えひめ未来里芋部会及びJ A周桑里芋部会に対して、親芋副芽セル苗増殖法（以下、「増殖法」という）を活用した優良種芋の生産技術講習を実施した。
- 当日は、当室担当者が増殖法の概要と栽培スケジュール等を説明した後、農林水産研究所が作成した、親芋から副芽を切り出す方法の動画を視聴した。
- 各J A部会とも、さといも産地として維持拡大を目指すためには優良種芋の確保が必須であることを認識しており、参加者は熱心に耳を傾けていた。
- J Aえひめ未来では、初めての取組となるため、セル苗作成に必要な時間や実施時期等について多数の質問があり、次回役員会（2月中旬頃）で細部を詰めることとなった。
- 当室では、引き続き優良な種芋確保を推進するため、同取組の支援を通じて、部会員への技術定着を図る。



J A周桑における技術講習

※ 親芋副芽セル苗増殖法…頂芽、腋芽を取り除いた親芋をパーミキュライト等に入れ、30度前後の条件で伏せ込み、副芽を萌芽させる。その副芽をセルトレイに移し、30～40日育苗し、種芋用の優良な種苗を増殖する方法。

### ■令和4年産「ひめの凜」の栽培面積まとまる

- 地域農業育成室は、各J A単位で栽培説明会や個別訪問による新規栽培者の確保に努めた結果、令和4年産の東予東部管内の「ひめの凜」は、栽培農家204人（集団含む）で面積301.3ha（前年対比184%）を栽培することになった。
- 3月からは、認定栽培者を対象に栽培講習会をJ A単位で開催し、これまでの反省点を踏まえ、適正な茎数確保に向けた中干しの徹底や食味向上のための肥培管理などを重点的に指導する。



J A周桑での栽培説明会

■特産野菜前期栽培（さといも・やまのいも）資料のDM対応

- 四国中央農業指導班は1月20日、JAうま営農指導販売課と連携し、特産野菜前期栽培指導資料を郵送した。
- 当班では例年2月に、さといもは「生産・品質の安定化による産地強化」、やまのいもは「品質の安定化と省力マルチ栽培技術の普及」をテーマに栽培講習会\*を開催していたが、今回、新型コロナウイルスの感染予防対策のため、栽培予定者350名にダイレクトメールで情報提供した。
- 月末には、さといもの品質低下要因と土づくりを含めた対策、やまのいもの病害虫対策など、多数の質問が寄せられ個別に対応を行った。
- 当班は、コロナ禍での適切な対応により、地域特産野菜であるさといも、やまのいもの生産・品質の安定化を図り、産地としてのさらなる振興を目指す。

令和4年度さといも前期の栽培管理について

※課題：疫病の防除徹底、乾腐病、軟腐病が拡大。窒素過多、排水不良対策。

1 種芋準備 【種芋消毒を実施して下さい。】

薬剤名	病害名	使用方法及び注意事項
ベンレートT水和剤20	黒斑病	○種芋浸漬20倍 1分間。 例) 薬液1.0Lの場合、薬剤50.0g。 また、 ○種芋粉衣 種芋重量の0.4～0.5%。 例) 種芋2.0kgの場合、薬剤80.0～1,00.0gで粉衣。

(2) 消毒方法

ア 種芋浸漬  
収穫 ⇒ 選別 ⇒ 洗浄 ⇒ 浸漬 ⇒ 風乾

イ 種芋粉衣  
収穫 ⇒ 選別 ⇒ 洗浄 ⇒ 風乾 ⇒ 粉衣

ウ 処理のポイント  
○ 収穫 … 種芋を確保する間隔は、疫病・乾腐病・軟腐病の発病が少ない圃場から、気温が安定して採種して下さい。  
○ 選別 … 病気と凍害のない株から劣化・損傷していない種芋(2.00～2.50kg/10a)を、子芋と孫芋に選別します。

令和4年度やまのいも前期の栽培管理について

※近年、芋の形状の乱れが大きくなっています。窒素過多が大きな原因と考えます。

1 種芋の準備（安定栽培のための重要ポイント）  
○無病で形状の乱れが無い優良系統な種芋を準備して下さい。  
○葉首を切り取り1個切片芋が50g程度になるように切断して下さい。

2 種芋消毒

病害名	農薬名	使用方法及び注意事項
青かび病	ベンレートフロアブル	1 種芋収穫前、200倍(30分間浸漬)します
	ベンレートT水和剤20	1 種芋収穫後、種芋重量の0.3～0.5%で粉衣(例:種芋200kgの場合、薬剤600～1,000gで、消石灰と混和して粉衣)

※片芋は欠株が多く取量にも大きく影響したため種芋消毒はしっかりと行って下さい。

3 土づくり  
完熟堆肥の施用が出来なかった場合は、『アズミン40kg/10a』施用して下さい。

4 圃場準備  
(1) 土壌の不良な環境(土壌水分・団粒構造)により、芋の形状が乱れる場合があります。土壌の状態が良い時に圃場準備を行います。  
(2) 寒冷地での栽培は控えて下さい。(寒冷地での対策)

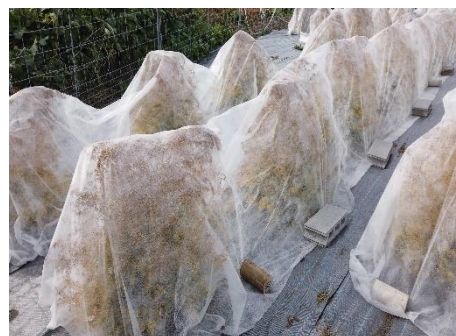
【さといも】要点：土づくり、種芋消毒、適正施肥      【やまのいも】要点：ほ場準備、種子消毒

※四国中央地域における特産野菜の栽培講習会は、年3回（5、7、2月）開催  
今回のDMIは、R4年産の栽培開始時の要点をまとめ、生産安定を図るため実施

東予地方局 産地戦略推進室

■花木の寒風害対策を実施

- 産地戦略推進室は、「メラレウカ」が寒さに弱いことが確認されたため、12月下旬から寒風害対策として樹体を不織布で被覆するよう指導している。
- 昨年1月上旬の寒波で、西条市丹原町の山間部ではマイナス4℃以下の低温状態が続き、樹幹上部の枝枯れや枯死する株が多く見られ、特に、赤色品種のレッドジェムは、一部のほ場で枯死率が60%以上と大きな被害を受けたことから、当室から簡易で安価な対策として不織布を提案した。
- 当室は、不織布2種類を比較する実証ほを設置し、資材の違いによる被害軽減効果を検証する。



不織布で樹全体を被覆

## 今治支局 地域農業育成室

### ■ニホンザル対策について集落ぐるみで検討

- 地域農業育成室は1月23日、ニホンザルによる農作物等の被害対策への機運が高まっている今治市朝倉高大寺集落において検討会を開催し、集落リーダー、地元猟友会10人に被害対策方法等を指導した。
- 会では、集落リーダーが同市玉川町の大型囲い罠によるサル捕獲事例の視察報告を行った後、当室担当者が、昨年10月に実施した集落環境点検活動の結果やセンサーカメラによる加害状況の報告と今後の対応策等の提案を行った。
- 検討の結果、集落内の餌場を減らす対策と加害個体を捕獲する対策を合わせて実施することとし、捕獲対策として1月24日に地元猟友会と協力して箱わなを設置した。
- 今後、当室は、センサーカメラを用いて鳥獣の出没状況を情報提供するなど、当集落を被害対策のモデル集落として重点的に支援する。



集落リーダー等が視察



加害群の行動調査（センサーカメラ）



検討会の様子

## 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班

### ■上浦地区の早期復興へ向けて営農について意見交換

- しまなみ農業指導班は1月20日、平成30年豪雨災害からの早期復興に向けた第4回ワーキングチーム会議を開催し、県、市、JAの担当者16人が出席した。
- 会議では、当室から、基盤整備完了後、営農再開にむけて活用できる補助事業を説明するとともに、関係機関から今後の基盤整備事業のスケジュールや、整備後の樹園地に導入する品種等の説明があった。
- 特に営農面では、水の確保や導入品種の栽培方法を確認するとともに、事業スケジュールに合わせた営農準備等が重要であることを意識統一した。
- 当班は、今後とも関係機関と連携し、島しょ部における果樹復興モデル園として、早期の営農再開に向け支援を継続する。



事業スケジュール等を情報共有

## ■島檸檬（レモン）ラムネ菓子の販売促進を支援

- しまなみ農業指導班は、「普及組織先導型戦略的産地育成事業」の売れる商品づくりプロジェクトを活用し、「島檸檬（レモン）ラムネ菓子」（生産者：菓子工房 花菓舎 代表：花澤友香）のブラッシュアップ支援を行っている。
- このたび、しまなみの海をイメージした新しいパッケージができたことから、商品の完成度を確認するため、1月10日、JAおちいまばりさいさいきて屋において店頭販売したところ、消費者からは「パッケージはしまなみらしくて、かわいい」「さっぱりしておいしい」「価格が360円は少し高い」などの意見があった。
- 支援対象者は、自家栽培のレモンを利用した商品が地域のお土産品になるよう、消費者の意見を参考に更なるバージョンアップを行う予定。
- 当班は、売れる商品づくりに向けてさらに同商品の改良点を検討するとともに、他の品目でも新たな市場展開（販路開拓や商品のブラッシュアップ等）に向けた支援を行う。



対面販売の状況



更新されたパッケージデザイン

## 今治支局 産地戦略推進室

### ■新花材ビブナム・ティナス等の花木栽培塾を開催

- 産地戦略推進室は1月21日、28日、花木の新規生産者の栽培技術向上を図るため、JAおちいまばり2支所で「花木栽培塾」を開催し、生産者17名が参加した。
- 同塾では、JAが販売状況を説明し、当室からは花木のせん定方法の講義と実習、蕾枝（つぼみえだ）の収穫、調整方法等を実演した。
- 生産者からは、「せん定の方法が見られて良かった」「まだ蕾枝を出せそうなので、今後出荷をしていきたい」等積極的な意見があった。
- 当室ではコロナウイルス感染対策により、参加者や開催か所を制限しつつ、今後も要望に応じ、小規模での講習を順次行う予定。



せん定方法の講義



せん定方法の実習

## 中予地方局 地域農業育成室

### ■中予の令和4年産「ひめの凜」栽培申し込み状況

- 管内の令和4年産「ひめの凜」栽培申し込みは、1月31日現在で約76haと令和3年産（約54ha）比140%となっている。申し込みがあった農家106戸のうち、新規申し込みが40戸である。
- 食べてみて味に納得し栽培を希望した新規申し込み者の中には、マニュアルに沿った栽培に不安を持っていたが、普及指導員による丁寧な指導もあると聞き、今年の申し込みに至った者もいる。
- 既に申し込みは締め切っているが、地域農業育成室は問い合わせや申し込みがあれば、可能な限り認定を受けられるよう対応していく。
- さらに、栽培に対し不安を持っている者もいることから、関係機関と丁寧な指導ができる体制を構築したうえで、良食味米の生産を目指す。

### ■リアルタイム栄養診断と天敵導入でいちごの生育順調

- 地域農業育成室は、いちごのリアルタイム栄養診断とハダニ類防除の天敵利用の普及を進めている。
- リアルタイム栄養診断は、約2週間ごとに実施し、測定値が基準値より低ければ、液肥管理の徹底や葉面散布を指導。今作では、栄養診断結果により2戸で液肥の管理不足を改善することができた。
- 天敵は、23人が262aで導入しており、天敵導入ほ場では、ハダニ類の発生が見られず、農家からは「農薬の散布回数が減り、楽になった」「ハダニ類の防除に困っていたが、解決できた」等の評価を得ている。



リアルタイム栄養診断



天敵の定着状況を確認

## ■「農福弁当」の商品開発へ着手

- 地域農業育成室では今年度、「農福連携」の農作業体験マッチング会を4回開催しており、そのうち複数の農家と契約に至った特定非営利活動法人「まこと」では、事業所内での内職作業として、「KITCHEN MOMO」の弁当の盛り付け作業も行っている。
- この弁当を「農福連携」で繋がった農家の農産物を食材とした、「農福弁当」として付加価値を付け売り出すことを検討している。
- これまで同法人と契約した農家では、レタスやブロッコリー、いちごなどの野菜類のほか、かんきつ類やキウイフルーツ、米の生産も行っており、マッチングした農家から農地や農業機械を借りて、同法人が農業生産にも取り組むこととしており、自社の農園で生産した農産物も積極的に利用していく意向を示している。
- 事業所のスタッフから「農作業が楽しいという利用者が増え、表情も明るくなった」「農福弁当の成功により、「農福連携」を行ってみたいという事業所が増えるきっかけとなる」という感想が聞かれた。
- 当室では、食品表示の確認等も行いながら、「農福弁当」の実現に向け支援する。



KITCHEN MOMOの弁当(現在の様子)



## ■「農福フェア」開催にむけて

- 地域農業育成室では昨年12月に中予管内の全就労継続支援事業所（計152箇所：就労継続支援A型48箇所、B型104箇所 令和3年9月1日現在）に「農業に関する意向調査アンケート」を実施した。
- アンケートによると農作業の施設外就労だけでなく、自社の農園で農業生産を行っている事業所も多く、そこで作られている農産物の販路を求める声があったことから、1月6日に地域福祉課と中予地方局1階ロビーで「農福フェア」として販売と農福連携のPRの場を設けるための打合せを行った。
- 接客を行いたいという福祉事業所の利用者もいることから基本対面販売とし、年度内に1回試行開催し、来年度は週1回の定期開催を目指している。
- 当室では、「農福フェア」の定期開催にむけ、今後も同課と連携を図る。



定期開催を計画している中予地方局1階ロビー



福祉事業所・地域福祉課との打ち合わせ

## 中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班

### ■サラリーマン等を対象とした就農相談会を開催

○伊予市農業振興センター新規就農者担当者会<sup>※</sup>は1月16日（日）、サラリーマン等で平日の来庁が困難な人を対象とした就農相談会を開催した。

○当日は事前申込のあった6人の就農希望者が来庁、本格的に就農を考えている相談者には、就農への希望や課題を聞き取り、利用可能な就農支援制度等について説明した。また兼業で農業を始めたい相談者には、初心者でも取り組みやすい栽培品目を提案するなど、個々が求める疑問や不安点が解消できるような相談会となった。

○当担当者会では、数年後の就農を考えている相談者の情報を集落リーダーにも共有するとともに、スムーズな就農に向けて今後も定期的に情報交換していく。



就農希望者との面談

### ※伊予市農業振興センター新規就農者担当者会

伊予市農業振興課・伊予市農業委員会・えひめ中央農協南部営農支援センター・愛媛農業共済組合伊予支所・伊予農業指導班で構成

### ■「葉れるや」が料理研修とグループのロゴを検討！

○伊予農業指導班は1月13日、伊予地区一次産業女子グループ「葉れるや」6人に対し、料理研修及びロゴの検討会を開催した。

○当日は新型コロナウイルス感染症対策を行った上で、「媛かぐや」の料理（煮物・素揚げ・チップス）を作り試食した。メンバーの反応は「ピーラーで簡単に皮が剥け、芋自体に味があって美味しい」「チップスは時間がたってもパリッとしている」などと好評で、コロナ終息後のイベント出店を見据えて意見交換が行われた。また、次期栽培に向けても意欲的な姿勢がみられた。

○ロゴマークは葉をモチーフにした「H」が中心になる案に決定し、当班では2月～3月にまさき村で行うマルシェに向けて、タペストリーとシールの作成など、活動を支援する。



「媛かぐや」の料理研修



最も好評だったチップス

## 中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班

### ■夏秋トマトの病害虫・生理障害診断ポスター作成

- 久万高原農業指導班は1月、管内のトマト生産者へ向けた「夏秋トマト 主な病害・虫害・生理障害」のポスターを作成した。
- このポスターは、前回作成時から8年以上経過し、新たな病害虫や知見等も増え、更新が望まれていたため、久万高原地区農業改良普及事業推進協議会からの依頼を受け、関係機関の協力を得て、このほど完成したもの。
- トマト生産者・関係機関等へポスターを配布し、病害虫や生理障害の判別・診断及びその防除や対策に活用する。当班は、今後も久万高原町夏秋トマトの安定生産に向け産地を支援していく。



完成したトマト病害虫・生理障害ポスター

### ■ピーマンの自動かん水装置の導入支援

- 久万高原農業指導班は1月13日、久万高原ピーマン部会支部実績検討会において、ピーマンの自動かん水装置の導入を推進した。
- 自動かん水装置の導入により、かん水作業時間が大幅に削減（手かん水に比べ最大75%）できることから、高齢化が進むピーマン農家のかん水作業の負担軽減や生産性向上につながる。管内ではピーマン農家16戸が導入済み。
- 同部会は、自動かん水装置の導入推進を部会組織活動として位置づけ、省力化技術の導入推進を図ることとした。
- 当班は、今後もピーマン栽培の省力化と生産性向上に向け、自動かん水装置の導入推進を支援していく。



久万高原ピーマン部会実績検討会（直瀬支部）

## 中予地方局 産地戦略推進室

### ■第2回『「さくらひめ」きゅんです♡キャンペーン』の結果概要について

○産地戦略推進室は、「さくらひめ鉢物産地づくり推進事業」に係る第2回『「さくらひめ」きゅんです♡キャンペーン』（令和3年10月20日～令和4年1月31日）を実施し、さくらひめ鉢物の消費動向調査や情報発信に取り組んだ。

○消費動向調査は、さくらひめ鉢物にQRコード付きのラベルを添付してWebにより実施し、全国から288人の回答があった。

（第1回キャンペーン（令和3年4月20日～6月30日）では255人から回答）



さくらひめの鉢物

#### 【調査結果の概要】

- ・回答者は、女性が9割で、年齢は40歳以上の方が9割
- ・購入者の約5割は県内であったが、東北地方から九州地方まで、併せて26府県の購入者から回答
- ・品質は83%が「大変良い」「良い」と回答
- ・購入したい時期は秋（10月、11月）が多く、約7割がガーデニングのために購入
- ・県内では、「切り花だけでなく鉢物のさくらひめが欲しかった」との意見
- ・県外では「とても可愛らしい」「花色が綺麗」等の好意的な意見が多数寄せられたが、「初めて見かけた」との意見が多数

○当室では、今回の調査結果を農業者と共有するとともに、若い世代へのPRや栽培方法の情報提供をはじめ、引き続き、さくらひめ鉢物の認知度向上・販路拡大に取り組む。

## 南予地方局 地域農業育成室

### ■青年農業者によるノウサギの捕獲活動を実施

- 地域農業育成室は、「えひめ地域鳥獣管理専門員総合育成事業」の一環として、宇和島市薬師谷地区において、狩猟免許を有する青年農業者を核とした鳥獣害防止対策に取り組んでいる。
- この活動では、11月から週1回の定期的な園地巡回の結果、青年農業者の果樹園において、ノウサギによる苗木の食害が散見された。そこで当室の担当者が専門家の助言を得て、青年農業者に11月から12月にかけてワイヤーを加工したノウサギ用くくりわなの製作や、侵入経路を特定したうえでわなの設置等を指導。1月11日の巡回時にはノウサギの捕獲を確認し、経済的で効果的な捕獲方法を習得した。
- 当室では、この取組をさらに拡大し、青年農業者によるシカ、イノシシの捕獲活動を支援し、若手狩猟者の育成を通じた鳥獣害防止対策を進める。



侵入経路での設置方法を指導



捕獲されたノウサギ

### ■優良種芋の生産に向けて

- 地域農業育成室は1月21日、JAえひめ南、全農えひめ、農林水産研究所と今後の種用さといも生産について協議した。
- 当日は、10月20日に当室が行った試し掘り調査に基づく令和3年度産種用さといもの出荷予想量は17.3tとなることを報告。また、昨年度の出荷遅れや出荷量の不足等の反省を踏まえ、今年度の出荷方法や来年度の種用さといも生産について検討した。
- 管内は「サトイモ疫病」の未発生地域で、県内各JAから種芋供給を強く要望されていることから、年間20tの優良種芋生産に向けて、親芋副芽を利用したセル苗生産技術を活用し、種用さといもの生産面積を2haまで拡大していくことを申し合わせた。
- 当室は、優良種芋の生産体制の構築と疫病侵入警戒対策を講じながら、宇和島圏域の水田さといもの生産振興に努める。



育苗施設でのセル苗生産

## ■柑橘農業復興対策の着実な推進に向けて

- 地域農業育成室は1月25日、平成30年7月豪雨災害からの柑橘農業復興対策を検討する営農支援班会議を開催し、JAえひめ南、宇和島市、南予地方局の担当部課長らが園地復旧や営農支援策の進捗状況、労働力確保対策などについて情報共有・協議を行った。
- 当室からは、新たな高品質生産技術として、整備園地での活用が期待できる温州みかんのシールディング・マルチ栽培の実証結果や、収穫アルバイター等のための常設トイレ設置の広がりなどについて報告。
- また、JAが取り組む大苗の供給体制整備のほか、農地や担い手の情報を宇和島市農業支援センターに一元集約する構想などについて意見交換した。
- 当室は、今後も組織横断的に連携しながら、再編復旧工事後の営農再開に向けて、早期成園化や労働補完対策等にスピード感を持って取り組む。



営農支援班会議

## 南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班

### ■鬼北のくり産地を次世代に繋ぐために！

- 鬼北農業指導班は12月23日、24日に、JAえひめ南、鬼北町、松野町と連携し、JAえひめ南くり同志会の会員266人を対象としたアンケート調査で、栽培規模縮小の意向があると回答した5人への個別面談を実施した。
- これは、栽培が困難となり貸借等を希望する園主と、栽培意欲のある農業者とのマッチングを図り、鬼北くりの安定生産を目指すための取組。
- 当日は、園地情報や貸借・売買希望条件等の聞き取りとマッチングまでの流れなどを説明し、5人のうち4人が情報提供を希望したことから、再度訪問し、園地情報等をまとめたカードを作成した。
- 当班では、このカードを両町、JAと共有し、新規就農者等の栽培候補者に、講習会を含めた様々な場面で情報提供し、くり園地の流動化を支援する。



くり園地での面談



園地番号	園主	面積	品種	樹齢	中耕・除草	施肥内容	病害	病害発生時期	貸借	売買	備考
00001	鬼北町農業者	1000坪	くり	10年	中耕・除草	有機質肥料	なし	なし	貸借希望	なし	2023/10/15
00002	鬼北町農業者	500坪	くり	5年	中耕・除草	有機質肥料	なし	なし	貸借希望	なし	2023/10/15
00003	鬼北町農業者	800坪	くり	8年	中耕・除草	有機質肥料	なし	なし	貸借希望	なし	2023/10/15
00004	鬼北町農業者	1200坪	くり	12年	中耕・除草	有機質肥料	なし	なし	貸借希望	なし	2023/10/15
00005	鬼北町農業者	600坪	くり	6年	中耕・除草	有機質肥料	なし	なし	貸借希望	なし	2023/10/15

作成した園地情報カード（例）

### ■コロナに負けず、くりの栽培管理講習会を実施！

- 鬼北農業指導班は1月25日、JAえひめ南と連携し、JAえひめ南くり同志会員等41人を対象に、くりの栽培管理講習会を開催。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、参加者を地区別の2班に分けて実施した。
- 講師は、当班の若手職員が務め、くりの品種や病害虫等の説明に加え、聞き取り調査に基づく貸出希望園地の情報提供を行った後、実際に低樹高栽培に向けたせん定方法を実技指導した。
- また、当班では1月21日から受託せん定を担う同志会員18人の指導にも当たっており、せん定など栽培管理指導等を通じて鬼北くり産地の活性化を図る。



くり栽培管理講習会



くりせん定班活動

## ■花粉キウイフルーツモデル園で苗木ポットの導入を行う

- 鬼北農業指導班は1月19日、果樹研究センターと連携して、花粉キウイフルーツモデル園1ヶ所で新たに苗木ポットの導入を行った。
- 当モデル園では、ポット栽培を行っているが、地植えに比べて枝の伸長が緩慢なため、ハウス内の4列の中に新たに2列(27本)を増やすこととした。
- また、従来の棚仕立ては常に上を向いて作業をするため首への負荷が大きいことから、作業性の改善と収穫雄花数の増加を目指し、ぶどうの垣根下垂仕立てを取り入れる予定。
- 当班では、5月の花粉の初収穫に向けて、せん定や新梢管理等の栽培管理指導を継続する。



植え付け風景

## ■鬼北地区の農産物加工品を魅力的に見せる写真撮影研修会を開催！

- 鬼北農業指導班は1月13日、管内の農産物加工品製造者5軒を対象に、クリエイティブオフィススワイズ吉川道成氏を講師に招き、加工品の撮影および撮影時におけるポイントについて研修会を実施した。
- 生産者が製造した「桃ジャム」「ゆずジャム」「手もみ茶」「国産紅茶」の4品についてパンフレット等に使用する写真を撮影しながら、「商品を魅力的に見せる撮り方、日常でも実践できる撮影のポイント」について研修した。
- 今回撮影した写真は、各製造者のPRや販売機会の拡大を目的として、県下の生活研究協議会員に向けて配布されるパンフレットに掲載されるほか、町のイベント時やPOPに活用する予定。
- 当班では引き続き、地区の農産物加工品のPRや販売促進について支援していく。



写真撮影研修会



桃の透明感を演出



食べ方を紹介



## ■認定農業者が経営面積拡大等に向け検討

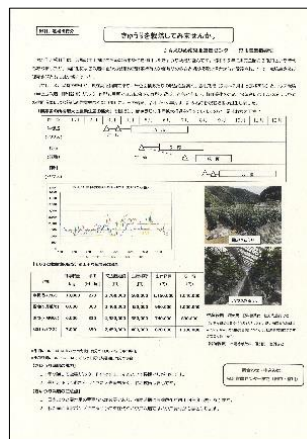
- 鬼北農業指導班と鬼北町は1月19日、21日、農業経営改善計画の新規認定と再認定にかかる個人面談会を開催した。
- 今回は、5年ごとの更新時期にあたる14人（H29認定）と、新規に経営改善計画を申請する1人が参加した。
- すべての参加者が、栽培面積拡大や新品種の導入、新たな農業機械導入などを計画しており、計画作成支援のみならず、有効に活用し得る補助事業や各種資金についても紹介した。
- 15人全員が、所得・労働時間等の目標達成も見込めることから、全員が再認定・新規認定の予定であり、今後も当班では、計画的な規模拡大や技術導入等の経営改善が図られるよう支援する。



個別の経営相談

## ■きゅうり生産者数の拡大に向けて

- 鬼北農業指導班とJAえひめ南は、きゅうり産地の再興に向けた取組の一つとして、生産者を増やすための新規生産者勧誘チラシを作成した。
- チラシには、10a当たりの販売高や生産経費、出荷経費に基づく収益性を記載するとともに、ハウスと露地の組み合わせで長期間収穫が可能であることなどを盛り込んでいる。
- また、過去5年間の時期別平均単価を記載し、栽培予定者が定植時期を検討しやすいように作成した。
- 今後開催する講習会等で配布し、生産者から栽培に関心のある農家を勧誘してもらうとともに、JA広報誌の折り込みも行う予定。
- 当班では、新規栽培希望者が参集する栽培塾等を開催し、今後も産地拡大に努める。



新規生産者勧誘チラシ

## ■ハウスきゅうり1条振分摘芯整枝法により収量及び秀品率アップ

- 鬼北農業指導班は1月14日、きゅうり産地再興に向けた取組として、ハウスきゅうりの新たな誘引法を実証した試験結果報告会を開催し、生産者21人が参加した。
- 鬼北管内（鬼北町、松野町）のハウス栽培での整枝法は、従来の露地用アーチをハウス内に設置する栽培方法が主流で、生育が進むと日照不足による流れ果等の発生や誘引ネットによる傷果の発生が多くなっていた。
- そこで、日照量の確保や誘引ネットとの擦れによる傷果の減少が期待できる1条振分摘芯整枝法が行えるよう、通常のパイプハウス内にタイバー（逆T）を設置し、内張ビニールも展張できるよう2ヶ所のハウスで改修を行い、実証ほとして調査していた。
- その結果、従来の整枝法と比較し、収量が2倍に増加し、正品率も7%上昇するなど好結果が得られたことに加え、タイバー設置等に係る費用や活用できる町単事業なども説明した。
- 実証ほの生産者2人からは、「想像していた以上に収量が上がり、収穫作業も楽になった。3月末に定植する半促成栽培では全ハウスで取り組みたい」という意見もあり、当班では、整枝法に関心のある生産者への重点的な指導を継続していきながら、管内の平均収量向上に努める。



実証結果報告会

## 南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班

### ■「河内晩柑」の省力化を推進

- 愛南農業指導班は1月14日、南宇和地区営農指導連絡推進会議果樹部会を対象に「河内晩柑」の省力化対策検討会を開催した。
- 当日は、これまで当班が取り組んできた低樹高化などの現地試験結果の報告や今後の活動について協議した。
- 低樹高化では、50cm程度の樹高切り下げは1年経過すると樹高にあまり差がなくなったことから、新たな取組として落葉果樹で実施されている「カットバック」や、高樹高化の要因と考えられている自根発生樹へのチェーンソーを用いた「環状はく皮」の試験にもチャレンジしていくことを確認した。
- また、密植園対策では、ドローンを用いた空撮による縮間伐手法を提案し、密植化が問題となっているJA実習ほ場で活用することとした。
- 今後も当班は、同部会と連携し省力化対策に取り組み、「河内晩柑」の作業効率化を進めることとしている。

※カットバック：骨格となる主枝や垂主枝を地表より1～1.5m程度の位置で大きく切り戻して新梢の発生を促し低樹高化を図るもの

環状はく皮：樹皮の一部を剥ぎ取り、養分流動の遮断によって果実品質を高めるほか、樹勢をコントロールする方法



カットバックにより低い位置での枝の発生を狙う



自根発生状況の確認

■うめの「春季摘心処理」の効果を調査

○産地戦略推進室は1月12日、「新たな果樹産地づくり推進事業」で現地試験を行っているうめの「春季摘心処理」の効果について、松野町目黒の園地で調査を行った。

○同町の南高梅では、春先に発生する枝が徒長枝となって樹形を乱すとともに、樹の内部まで光が入りにくく、花を着ける枝が枯れ込む原因となるため、生産者は冬季のせん定で徒長枝を除去するなど多くの労力を要している。昨年度の試験で、春先に発生する枝の先端を摘心（春季摘心処理）することで徒長枝の発生を抑制し、冬季のせん定時間が大幅に短縮されることを確認。今年度はさらに収量への影響を見るため、花芽の着生状況についても調査を行った。



春季摘心処理区

○この結果、昨年5月に同処理を行った樹では、無処理に比べ樹冠内部の徒長枝が約9割減少するとともに、結果枝の花芽着生が多いことが確認されたことから、当室では引き続き収量等の調査を行い、処理の効果を講習会等を通じて生産者にフィードバックすることとしている。



無処理区

表 摘心処理が徒長枝の発生本数と花芽着生に及ぼす影響

	徒長枝の本数 ※	花芽の着生数 (個) ※※	
	樹冠内部 (本/樹)	外周部	樹冠内部
・春季摘心処理区	1.0	7.1	7.3
無処理区	11.3	6.6	4.9

※垂主枝3本当たり

※※中果枝10cm当たり

## ■「南予の逸品」と「地域商社的農業者」の取組を情報発信！

- 南予地方局及び八幡浜支局産地戦略推進室は、「南予の農産物販売促進事業」で取り組んでいる「南予の逸品」や「地域商社的農業者」について、ネットや情報誌を活用した情報発信を実施しており、このほど「タウン情報まつやま」の2月号、同ウェブサイトのほか、アプリ「えひめのおぷり」でこれまでの取組を特集で紹介。
- 委託事業者の（株）エス・ピー・シーと協議を重ね、商品の特徴やその魅力、ECサイトを活用した新たな販売モデルの取組について、一般読者向けに魅力的なキーワードを使いながら、南予の特色ある商品や生産者のプロフィールを掲載。
- 両室では、今後もSNS等を通じて情報発信に努めるとともに、「南予の逸品」の販路拡大、「地域商社的農業者」のニーズに応じた新たな商品の提案と農業者とのマッチング等に取り組みながら、南予の農産物の販売拡大とコロナ禍における新たな販売モデルの構築に繋げる。



「地域商社的農業者」紹介ページの一部

※南予の逸品：知名度は低い商品として魅力があり、特色のある農産物や加工品等7品目を「南予の逸品」に選定しPRしている

※地域商社的農業者：ECサイトで自ら生産した農産物等とともに他の農業者の商品も販売する農業者

## 南予地方局八幡浜支局 地域農業育成室

### ■八幡浜市高野地地区で就農支援チーム発足の機運高まる

- 地域農業育成室は1月13日、八幡浜市高野地地区のみかん組合役員等計11人を対象に、就農支援チームの設立に向けた説明会を開催。
- 当室では、かんきつ産地の担い手の確保・育成に向け、移住就農希望者に対して農業体験や農業研修、就農・定着までのサポートを行う就農支援チームを、八西地域の各地区に設立することを目指している。
- 当日は、支援チームの概要や補助事業、設立に向けたスケジュール等について説明し、具体的な体制や取組内容等について検討した結果、出席者の合意を得られたことから、4月の設立に向け準備を進めていくこととなった。
- 八西管内では現在、11地区に就農支援チームが設立されており、現在7人が就農に向けた研修を実施中。新規就農者の確保・育成の重要なシステムとして定着していることから、当室では、当該地区への就農支援チームの設立に向け、継続的な支援を行う。



就農支援チーム設立に向けて検討

### ■輸出用温州みかん生産者のグローバルGAP認証審査をサポート

- 地域農業育成室は、農産園芸課と連携して管内のグローバルGAPの認証に向けた支援を行っており、1月14日、取得者1件の再審査を実施した。
- 当農業者は、輸出用温州みかんの栽培を行っており、当室は相手国の基準に適応した薬剤の防除や、土壌分析に伴う肥培管理等の指導をしている。
- また、当農業者は認証を援助するコンサル会社とは契約してないことから、当室が主体となり、昨年10月から内部検査を行うとともに、書類や園地、施設等の確認を行い、審査に向け準備を進めてきた。
- 審査では大きな指摘もなく、不適合内容に対する是正も終了したことから、1ヵ月程度で承認される見込みである。



海外向け輸出用認証園地の状況

## ■「清見」の新たな販売商材（夏季販売果実）を百貨店バイヤーにPR

- 地域農業育成室は1月19日、JAにしうわと連携し、えひめ農商工ビジネス販売相談会にて、(株)高島屋の生鮮担当バイヤーに、「清見」の夏季販売商材のPRを実施した(リモート形式)。
- 相談会では、当室が実証した「清見」の長期冷蔵貯蔵技術について紹介し、その技術で貯蔵した「清見」をお中元商材として販売する方法を提案した。
- バイヤーからは、「貯蔵により食味は上がるのか」「ギフト用の箱は既にあるのか」といった質問や「夏のかんきつは希少で、安定した売上が見込める」「現地を見たい」とのコメントを頂き、高い関心が示された。
- 当室では今後、夏季販売用「清見」のサンプルをバイヤーに送付し、「清見」の販路拡大に向けた活動を行うとともに、生産量の拡大によるブランド力向上に努める。



リモート形式で清見の夏季販売について商談

## ■一次産業女子さくらひめメンバーが農業経営について意見交換

- 地域農業育成室は1月21日、八幡浜市と伊方町の一次産業女子さくらひめメンバーで組織する「∞農Harvest (はちのうは一べすと)」の意見交換会を実施し、5人が参加。
- 今回の意見交換会は、「農業経営移譲の進め方が分からない」「倉庫の建設を考えているが、どこから取り組めばいいか」と言ったメンバーの呼びかけで開催した。
- 参加メンバーからは、法人化、経営移譲、経営管理、倉庫建設や工夫事例、雇用労働力の確保などについて、悩みや事例交換が行われ、当室からは補助事業の説明などを行った。
- 参加者は「農業経営改善に向け、出来ることから取り組もう」と意欲的で、2月にはメンバーの管理ほ場や園地トイレ、アルバイト宿泊施設を見学することとなっており、当室は今後も女性の働き方改革を進めていく。



法人化について学ぶ参加者

## ■女性の労働環境改善を目指し家族経営協定を締結

- 地域農業育成室では、農業に携わる各世帯員が経営方針や役割分担を明確にし、より良い経営を目指す家族経営協定を推進しており、この程、八幡浜市高野地地区の農家5戸が家族経営協定の締結に至り、1月26日に調印式を行った。
- 今回締結した5戸は、夫婦間2戸、夫婦と後継者間2戸、夫婦と後継者及びその妻間1戸で、我が家の目標、役割分担や収益の配分、労働時間・休日などについて明確にした。
- 調印式では、「目標に向かい、後継者にいいバトンを渡したい」「改めて農業の目標ができた」「高品質なかんきつ栽培を行い、経営発展に努めたい」など各農家から発表があった。
- 当地域は、国の「令和3年度女性の活躍推進対策事業」に取り組み、地域のアルバイト宿泊施設の女性専用洗濯場や休憩室の設置を行うなど、女性農業者の労働環境改善に対する意識が高く、一度に5組が締結する事例は県内でも極めて稀。
- 今回の調印により、八幡浜市の家族経営協定数は162件となった。



署名捺印した協定書を持つ締結農家と立会人



## 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班

### ■甘柿「太秋」のせん定講習会を実施

- 大洲農業指導班は1月19日、内子町において甘柿「太秋」のせん定講習会をJ A愛媛たいきと連携して実施し、栽培者14人が参加した。
- 「太秋」は、管内で最も多く生産されている甘柿「富有」と比べ、食感がサクサクしていて、果汁が多く食味が優れる品種である。一方で、樹勢が低下する傾向があり雄花が着生しやすいことから収量の安定化が難しく、いかに雌花の着生量を確保し収量を増やすかが課題となっている。
- 講習会では、当班からせん定のポイントを解説。一般的な柿では不要となる徒長枝や内向枝の活用など「太秋」特有の方法を説明し、参加者と意見を交わしながら実際にせん定を実演した。
- 参加者から、摘果など他の作業に関する講習会の開催要望も聞かれたことから、当班は、「太秋」生産者に時期別栽培管理講習を実施し、生産拡大に向けた支援を継続していく。



現地で実践しながら講習

### ■直売所出荷者に対する春・夏野菜の栽培講習会を開催

- 大洲農業指導班は1月25日、内子町道の駅からの野菜出荷者40人を対象に、春・夏野菜の栽培講習会を開催。
- 直売所の生産者は、少量多品目で取り組むことが多いため、なすやきゅうりなど8品目に絞って、栽培上のポイントを指導。
- 防風を目的としたソルゴー栽培や地温抑制効果の高いマルチの紹介など、関連する技術の紹介と合わせて講義を行い、参加者からは、病害への対応や栽培管理など多くの質問が寄せられた。
- 今後も、当班では各品目の栽培講習会や園地巡回を通じて、高品質な春・夏野菜の生産に向けた指導を行い、地産地消を推進する。

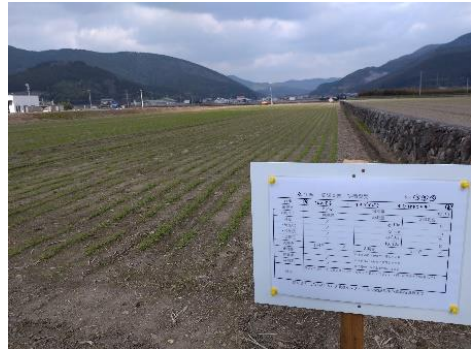


スライドで栽培上のポイントを説明

## 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班

### ■県内一の小麦産地の安定生産に向けて栽培概要板を設置

- 西予農業指導班は、12月末から1月5日にかけてJAひがしうわと連携し、小麦展示ほ7カ所に栽培概要板を設置した。
- これは、コロナ禍による集合研修機会の減少を受けて、小麦生産者が各自で相互研修を行えるように設置したもの。新規導入品種を中心に、移植時期や耕起方法の異なるほ場を選定し、肥培管理や栽培中の情報を記載できる項目を設けた。
- 現在、設置農家5戸に追記協力を依頼しており、麦踏みや追肥実施後に、時期や内容を記入することとしている。
- 今後、栽培概要板設置の周知による相互研修のフォローや担い手農家の現地研修機会を創出することで、県内一の小麦産地として、生産者の栽培技術向上とコロナ禍でも出来る「密を避けた」指導体制強化を図る。



調査ほ場に設置した栽培概要板

### ■令和4年産水稻栽培における「稲こうじ病」対策

- 西予農業指導班は1月6日、西予市水稻防除協議会と連携し、「稲こうじ病」対策に係る資料を水稻栽培農家（約600戸）に配布した。
- これは、令和3年産水稻栽培において、8月の低温長雨が普通期栽培の穂ばらみ期から出穂期と重なり「稲こうじ病」の発生が拡大したことを受けて、高品質生産を図るために関係機関で協議の上、発生形態と防除方法を周知することにした。
- 当班では、栽培品種や移植期・使用薬剤ごとの詳細な追加調査を実施しており、過去の調査結果や研究機関の情報と示し合わせて箱施用剤施用と本田（出穂前）防除体系の徹底を促すこととした。
- 今後、多発により菌密度が高い可能性のある地域を中心に、移植時や防除適期に周知徹底を行うことで高品質米の生産による売れる米づくり産地の確立を推進する。

**稲こうじ病について**

**特徴**

- 葉、葉鞘部にできる黒い病斑が特徴的
- 穂節や穂節付近で葉と葉の間に病斑が広がる
- 高温多湿、稲刈り後の乾燥不足による発生が主である
- 発生時期は、穂ばらみ期から出穂期にかけてである
- 発生場所が、葉の裏側や葉の付け根などである
- 発生原因は、稲刈り後の乾燥不足による発生が主である

**生 態**

**防 除** 発生後防除の原則は発生後

- 稲刈り、刈り取り後の乾燥不足による発生が主である
- 発生時期は、穂ばらみ期から出穂期にかけてである
- 発生場所が、葉の裏側や葉の付け根などである
- 発生原因は、稲刈り後の乾燥不足による発生が主である

防除剤	防除時期	防除方法
ボルドー	移植後10日～15日	葉の裏側や葉の付け根に散布
ボルドー	移植後20日～25日	葉の裏側や葉の付け根に散布
ボルドー	移植後30日～35日	葉の裏側や葉の付け根に散布
ボルドー	移植後40日～45日	葉の裏側や葉の付け根に散布

地域全体の密度を減らすことで  
稲こうじ病を減らしていきましょう

西予市水稻防除協議会



作成した資料「稲こうじ病について」

発生が拡大した稲こうじ病

## ■新規就農者が経営に係わる税について学ぶ

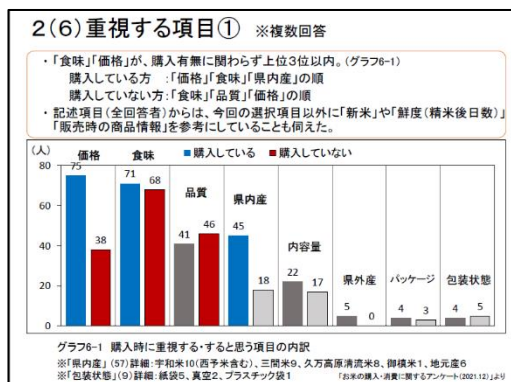
- 西予農業指導班は1月13日、西予市と共催で農業次世代人材投資資金受給者等を対象に「第2回交流研修会」を開催し、16人の新規就農者等が参加した。
- 当日は、地元の税理士を講師に、所得税や消費税、記帳と決算、確定申告書の記載方法等について学んだ。
- 参加者からは、中古機械の減価償却方法や圧縮記帳と固定資産税の関係等の質問があったほか、講師に個別相談する者もあり、専門家から直接話を聞く良い機会となった。
- 当班は新規就農者の経営発展と農業者間の交流が図られるよう、引き続き関係機関と連携し支援を行う。



農業経営に関する税制について学ぶ

## ■「西予米」売れる米産地の確立へ アンケート調査結果をとりまとめ

- 西予農業指導班は1月13日、「お米の購入・消費に関するアンケート調査」（回答数210件）の結果をまとめた。
- この調査は、「西予米」の販路拡大と認知度の向上に向けた方策を検討するため昨年12月に、県職員を対象に購入動向や保存方法・炊飯等の消費者動向を把握したもの。
- この結果、購入時に重視する項目は、「食味」・「価格」・「品質」がどの世代も上位であったことから、「良食味米」の生産と効果的な発信が重要であることが分かった。
- 調査結果は、今後管内の直販農家や団体に対して配布・説明を行い、「西予米」の販売や良食味米生産に向けた普及指導に活用する。



アンケート調査結果 (一部抜粋)

## ■産直活動「かかCの市」で地域食「ひな豆」を伝承

- 西予農業指導班は、西予生活研究協議会の食農教育活動を支援しており、1月30日、どんぶり館で同協議会が取り組む産直活動「かかCの市」に併せて地域食の「ひな豆」を配布し、西予市の味伝承に取り組んだ。
- 「かかCの市」は、同協議会が昭和59年から続けている産直活動で、毎週日曜日に寿司や惣菜類、蒸し饅頭などを実演販売し、消費者交流の場となっている。
- この日は、早朝から会員が加工調理した多種類の加工品を販売するとともに、来場者にレシピ付きの「ひな豆」を配布した。購入者の中には、ひな豆や西予の味に関心を持つ方も多く、会員に作り方を聞くなど食文化伝承のいい機会となった。
- なお、当班では今回の「ひな豆」の配布に併せて、調理・加工工程の動画を撮影しており、今後の食文化伝承活動に役立てることとしている。



「かかCの市」で「ひな豆」を配布



地域食の「ひな豆」



## 南予地方局八幡浜支局 産地戦略推進室

### ■「第8回南予マルシェ」を八幡浜で開催

- 八幡浜支局と南予地方局の産地戦略推進室は1月8日、八幡浜銀座商店街で「第8回南予マルシェ」を開催した。
- 今回のマルシェは、天候が良い休日の開催となったことから、従来の客層に加え家族連れも多かった。道の駅ひじかわからは、地元企業で生産されたトマトや肱川ラーメンなどの特産品が多く販売され、道の駅みまには、白菜、ほうれんそう、ねぎなど旬の冬野菜が豊富に並び好評であった。また、地元産果物を使ったスイーツや紅茶、にんにく加工品など、地域農産物を使った加工品も多く出品され、短時間で売り切れとなる商品もあるなど賑わった。
- 2月以降については、直近の新型コロナの感染状況等を踏まえた上で関係団体と対応を協議することとしており、コロナ禍での農産物等の販売機会確保に努める。



地元産果物のスイーツ販売



旬の冬野菜の販売

### ■JAにしうわの「甘平」台湾へ

- 産地戦略推進室は1月8日～15日、「甘平」の台湾輸出に向け、ブランド戦略課、JAにしうわと、輸出用果実の選果基準の確認と箱詰め作業を支援した。
- 今年は、春節前の1月21日～23日に愛媛フェアを開催するのに合わせて、3戸の農家が生産した果実2.1tを出荷。輸出業者である(株)裕源等を通じて、現地の高級スーパーや百貨店で販売される。
- 販売状況については、新型コロナの影響により産地から渡航できないため、後日現地から報告してもらうこととしている。
- 当室では、海外輸出の支援を通じて、新たな販路としての定着と産地のブランド力強化を目指す。



選果基準の確認



箱詰め作業

## ■加工用青ねぎの冬季育苗期間の短縮効果を検証

- 産地戦略推進室は1月11日、現行の冬季育苗において問題となっている苗の生育不良に対して、昨年に引き続き試験を開始した。
- 今季は、低温による育苗の長期化が病害虫の発生や肥料切れ等の原因となっている可能性を考慮し、加温による育苗期間の短縮について検討する。
- 本試験では、電熱マットとビニールトンネルを用いた加温により、通常よりも約2か月遅い1月播種での生育を評価することとし、実施にあたって、(株)百姓百品村の担当者と試験区の設定を行った。
- 3月の定植時に十分な生育が確認された場合、上記の問題の解決に加え、育苗に要する労働力の削減が期待できる。
- 当室では、導入費用等のコスト面での評価も行いながら、引き続き生産技術の改善を図っていく。



育苗床の加温試験

## 農産園芸課 高度普及推進グループ

### ■「甘平」の裂果対策に向けて土壌下層への根域の拡大を確認

- 高度普及推進グループは1月24日、「甘平」の裂果対策に向けて土壌下層への根域の拡大を目的に、昨年4月に設置した土壌改良の実証ほにおいて根群の発達状況を調査した。
- 本実証は、土壌表層から深さ10cm付近に根群が集中し土壌水分の変動が大きいと、根による吸水が不安定となり裂果が多発していると考えられるほ場において、水分が安定して多い土壌下層部へ根域を拡大し吸水を安定させることで、裂果を抑制しようとするもの。
- 下層部への根の伸長を促進するために硬盤層の破壊と併せて土壌改良資材と混和するなどの土壌改良を行った結果、埋め戻した小中根の切断部付近から細根が再生して深さ30cm程度の下層部に多くの細根群が形成されていたことから、土壌改良による根域拡大の効果を確認した。
- 当グループでは、引き続き、土壌改良による樹体や果実の生育を確認しながら実証を行い土壌下層部への根域拡大と生育期間を通じた灌水により安定して十分な土壌水分を保持することで裂果を軽減する効果を検証していく。



土壌改良後の細根の再生状況



細根の形状を比較

(再生した細根は太く活性が高い)

## ■リアルタイム遠隔診断におけるニューアイテムの試用

- 高度普及推進グループは、リアルタイム農業普及指導ネットワークシステムによる、より高度な遠隔診断を実施するため、タブレット及びタブレットのカメラに装着する拡大レンズを活用した診断法を試行した。
- これまでのスマートフォンを活用した診断では、1～2mm程度のコナジラミやダニを現地を確認する場合、接写する距離に限界があるほか、スマートフォンの小さな画面では焦点があっているかどうかを現地を確認できない等の問題があった。
- 当グループでタブレット及び拡大レンズを活用した診断を行ったところ、目視では確認できなかったダニやコナジラミの種別、卵や羽化の様子等を確認できるなど、より高度な診断が可能になることが確認できた。
- 当グループでは、8インチのタブレットを2月上旬までに県下の13ヵ所の普及拠点に配備し、派遣した職員が活用法等を直接指導するとともに、2月22日に開催される環境保全型農業調査研究会では、各局支局などから実際の使用感等についての意見を募ることとしており、遠隔診断システムの活用による現地の指導力強化を図ることとしている。



タブレットを利用したリモート診断



現地から送信されたコナジラミの羽化



## ■いちごの高収量を目指し厳寒期の培地内の養液濃度等を調査

- 高度普及推進グループは、いちごの高設栽培における適正な養液管理技術の確立に向け、西条市や東温市等で、培地内の養液濃度の目安となる土壤溶液中の電気伝導度（以下、EC）を測定し、貧日照、厳寒期における栽培ベッド内の養液濃度の変化と生育に及ぼす影響等を調査した。
- 調査では、培地内の養液濃度が給液する養液よりも高くなっているほ場が散見されたほか、同一ベッド内でもEC値の分布が大きく異なることや給液のタイミング、その日の天候等によりEC値が時間と共に刻々と変化していること等が確認された。また、極端に高い値となっている箇所では、新葉の展開の遅れ、要素欠乏、根の褐変が発生していた。
- 更に、調査園地の中でも、極端に高いEC値が確認された西条市の園地では、果実内部がコルク化し果実肥大や着色が不良となる症状について農業者から原因究明が求められたことから同症状について詳しく調査するとともに、2月8日にはリアルタイム農業普及指導ネットワークシステムを活用し、現地と県下で知見を有する研究員や普及指導員を映像で結び遠隔での診断を行う予定。なお、調査結果や診断の様子は、今後開催する普及指導員野菜調査研究会でも報告する予定で、養液管理技術の確立、普及により高設いちご栽培における高収量技術の確立を目指す。



培地内で褐変している根（西条市）



果実中心部のコルク化により  
廃棄されたいちご（西条市）

## ■革新的技術を実証する新型ハウスの建設等を指導

- 高度普及推進グループは、県下の先進的な技術をモデル的に実証する普及組織革新的技術導入事業を活用した実証ハウスの建設を指導している。
- 今治市では、甘長とうがらしの専用培地を使用した養液栽培技術を確立するため、傾斜地を利用した通風性の高い変形ハウスの建設に取り組んでおり、ハウスには10年以上の長期展張が可能で透過性が極めて高いフッ素樹脂フィルムが谷側半面に展張されるほか、細霧冷房装置の設置準備が進められている。
- 大洲市では、新しょうが早期出荷、多収栽培体系を確立するため、高張力鋼管を使用した低コスト大型ハウスの建設が進められている。
- なお、同事業では、今治市においても「紅い雫」や「さくらひめ」の苗を育苗するLED照明を利用した閉鎖型システムの設置を大手システムメーカーとともに進めている。
- 当グループは、ハウスやシステム等の設計から建設に関しては農業資材、システムメーカーと細部を協議しながら進めており、栽培が始まる2月からは、事業に取り組む農業法人等を支援しながら新技術の確立を進める。



傾斜地を利用した甘長とうがらし栽培ハウス  
(今治市)



高張力鋼管を利用したしょうが栽培ハウス  
(大洲市)

## 農産園芸課 企画調整グループ

### ■農業改良普及事業に関する外部評価委員会を開催

- 農産園芸課は、農業改良普及事業に関する外部評価委員会を開催した。
- 同委員会は、効率的・効果的な普及活動の推進に資するため、普及事業関係以外の外部関係者が客観的に普及活動について評価するもの。
- 今年度は、外部評価委員が選定した地域戦略ビジョン「雇用労働力の確保と労働環境整備によるブランド産地の強化」について、八幡浜支局の担当者から活動実績を報告するとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動の対象となっている農業者等はリモートで八幡浜市から参加し質疑が行われた。
- 委員会での発表や質疑の様子は、普及指導職員はリアルタイム農業普及ネットワークのデータベースで映像データを閲覧することが可能となっているほか、4月には農産園芸課ホームページ上にて外部評価報告書が一般公表される予定である。



担当者からの説明



現地との質疑応答

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543